

## 認知症の方やご家族の安心のために

四日市市では、認知症の人などが外出中に道に迷われた際の早期発見・安全確保のしくみや、事故にあった際の補償のしくみを整え、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを進めています。今回は取り組みの1つである、【どこシル伝言板】についてご紹介します。

どこシル伝言板とは、四日市市が取り組んでいる認知症の人が道に迷われた時に、発見した人が衣服等に貼られたQRコードを読み取り、インターネット上の掲示板にアクセスすることで、家族等に速やかに安否や発見通知メールが届くようになるシステムです。掲示板は発見者と家族など、限られた人だけ見ることが可能です。

認知症高齢者保護情報共有サービス  
**どこシル伝言板**

大変！おばあちゃんが  
いなくなった！

行方不明の方かな？  
洋服のQRコードに  
アクセスしてみよう

おばあちゃん！  
みつかった！

自動メール受信  
24時間365日  
密着連絡が取れる！

保護者

伝言板に  
アクセス

発見者

衣服等に専用の  
QRコードラベルを  
貼付けておく

この画面は保護者と  
発見者、自治体のみが  
見ることができます

QRコードシールのデザイン

耐洗ラベル  
衣服等にアイロンで貼付けます

蓄光シール  
持ち物等に貼る暗闇で光るシール

背面 様元

杖

事前受付にて初期登録が必要です。ケアマネジャーなどに相談しながら登録シートを記入します。登録シートをもとに、自治体(もしくは保護者)にて情報登録後、ラベルシートが配布されます。ご興味のある方は、右記の問い合わせ先にご連絡下さい。

問い合わせ先

四日市市役所 高齢福祉課 地域支援係  
TEL:059-354-8170 FAX:059-354-8280  
メールアドレス:koureifukushi@city.yokkaichi.mie.jp

## 梅雨なのに水が無い？



5月も過ぎて爽やかな季節からジメジメとした梅雨になってきました。

さて、皆さんは6月が『水無月』とも呼ばれることをご存じでしょうか？実は、『水無月』の『無』は『無い』という意味ではなく、連体助詞『の』の意味で使われています。つまり『水の月』ということになります。陰暦の6月は、今で言うところの6月下旬～8月上旬くらいにあたり、田んぼに水を引く時期です。そこから水の月、水無月としたようです。ちなみに、同じ理由で神無月も神様がいない月ではなく、「神の月」とする説もあるようです。

## お知らせ

### ナーシングホームもも四日市 看護小規模多機能型居宅介護 1周年

おかげさまで令和3年4月にて、ナーシングホームもも四日市看護小規模多機能型居宅介護は開設して1周年を迎えました。この4月に利用者さんとスタッフでお祝いパーティーを行いました。常に、初心を忘れず利用者様に満足して頂ける施設づくりを目指していきたいと思っております。『看護小規模多機能型居宅介護』とは訪問看護・訪問介護・通い・泊りを組み合わせ、看護と介護の両面から柔軟に24時間365日の体制でサービスを提供します。四日市在住の方は、サービスの利用についてお気軽にお問い合わせください。相談窓口：中村・二村

## 編集後記

第11号もも便り、いかがでしたでしょうか。今回も事業所ごとの特色が出ている便りになっていれば幸いです。まだまだ、コロナウイルスが収束しない状態が続いており、世間も疲弊していますが、早くワクチンが行き届いて安心した社会が戻ることを祈るばかりです。

【発行】 有限会社だいち  
ナーシングホームもも  
【編集】 もも便り発行委員会  
【発行月】 2021年6月(年3回)

★職員募集中★  
私たちと一緒に働きませんか？  
詳細はホームページを  
ご覧ください

ナーシングホームもも 検索  
<http://www.momo3.net>

- 【東員】 〒511-0254 員弁郡 東員町中上790-1 TEL 0594-75-0302
- 【鳥取】 〒511-0241 員弁郡 東員町鳥取917-2 TEL 0594-86-1110 TEL 0594-86-1113
- 【いなべ】 〒511-0428 いなべ市 北勢町阿下喜3514 TEL 0594-72-3530
- 【四日市】 〒512-8054 四日市市 朝明町441-1 TEL 059-336-3330
- 【桑名】 〒511-0901 桑名市 筒尾1-13-1 TEL 0594-33-0302

ナーシングホームもも  
令和3年6月発行

# 第12号 もも便り



日本の6月と言えば、やはり梅雨です。雨の日が続くと、あなたはどんな気持ちになりますか。また、初夏を感じさせる暑さになったり、春を感じさせる肌寒さに戻ったりと、気温の変化で体調を崩しやすい季節でもあります。コロナ禍ということもあり、気分が落ち込みそうになることもあります。紫陽花や菖蒲など、美しい花が咲き出す季節です。体調を崩さず、この季節を楽しみたいですね。

今回のもも便りのテーマは【ペット】です。

ペットは楽しい時、悲しい時、嬉しい時、ともに寄り添ってくれる大切な家族です。今回は、ペットとともに暮らす利用者様の様子について、ももから便りをお届けします。



## アニマルセラピー

広い意味では、動物との関わりが人間の健康の質を向上させることを指します。動物にふれあい、一緒に遊ぶことでリラックスすることができ、その結果、血圧やコレステロールの低下、自信と意欲の回復、言語活性化等の効果が期待できるそうです。動物は必ずしも飼う事が大切なのではなく、野鳥を眺めるなど動物と触れ合うことが大切だそうです。

## TOPICS

## TOPICS

### 鳥取



### “ミー”との絆



Aさん(86歳)は、奥様と2人暮らしをしていましたが、体調を崩して入院されました。退院後は自宅での生活が難しくなり、2019年8月に、ナーシングホームもも鳥取の有料老人ホームに入所することになりました。元々、人との交流が苦手なAさんは、入居後、しばらくして体調を崩されたことがきっかけで、自室から出ることを拒まれるようになり、食事の時間も含めて自室のベッドで過ごすことが多くなりました。



ある日、もものスタッフがAさんのご自宅へ伺い、奥様とお話をしていると、猫が顔を出しました。その猫は、Aさんが買った猫だと奥様より教えていただきました。名前は“ミー”で、Aさんが名付けたそうです。

“ミー”の写真を撮らせてもらい、大きく印刷してAさんにお渡しすると、いつもは口数の少ないAさんが、「ミーやな」と言って、自分が買ったことなどを、とても嬉しそうな表情で話して下さいました。そこで、“ミー”の写真をベッドで過ごしていてもよく見える位置に貼ることにしました。

すると、その数日後から、Aさんに変化が現れたのです。今まで、自室から出ることを拒んでいたAさんが、フロアでみなさんと一緒に食事をするようになりました。その後も少しずつ、フロアで過ごす時間が増えていき、今では、Aさん自ら、「起きる」と言われるほどになりました。

“ミー”と自宅と一緒に暮らした思い出は、Aさんの意欲や生活の活動性を高める程の効果がありました。たとえ写真であっても、Aさんは、毎日“ミー”と対話されています。今日も“ミー”の話をすると嬉しそうに笑顔で話して下さいました。



文責：須藤

## 東員

## マイスイートホーム

私の名前は、はな。トイプードルの女の子。  
お家を失くして、途方に暮れて彷徨っていたら、保健所の  
人に保護されて、そのあと今の家族にもらわれたの。  
私に一目惚れだったんですって！  
私の飼い主さんは、‘もも’って介護施設で働いていて、  
そこでの出来事を傍に座って聞くのが大好き。つい尻尾  
がブンブン揺れちゃうの。今日は何があったのかしら。

「今日ね、もものケアマネさんがzoomで  
退院前の会議に参加したの。要介護のお父さん  
は、息子さん住んでいる県外の病院に入院中。  
県内の自宅に帰りたがっているから、自宅で介護  
するための打ち合わせでね。ご本人とご家族、  
病院の看護師、ケアマネ、地域包括支援センター、  
訪問診療医、訪問看護師と、勢揃いだったの」

これが噂の‘タシヨクシュレンケイ’っていう  
やつかしら。心強いわね。

「挨拶のあと、息さんが『お父さん、皆さんに伝えたい  
ことある？』って聞いた途端、『帰りたい…帰らせて  
ください！！』って、何度も訴えていらっやったの。」

ニンゲンの魂の叫びね。  
吠えるだけなら私も負けないんだけど。

「そのあと、集まった皆で  
情報共有や支援方法を  
相談して、協力して在宅で支えていきましよう！と  
話がまとまってね、息子さんが『お父さん、家に帰れる  
よ！』と伝えたら、骨ばった大きな手で顔を覆って、  
『はああ…ありがとう！ありがとう！！ありがとうございま  
す！皆さんによく伝えてな！』って泣きながら感謝され  
て…」

最後にね、お家でやりたいことを伺ったら、お父さん、  
目を輝かせて『風呂に入りたい！』って。  
『そんなこと今まで1度も言っていなかったよね？！』  
と息子さん大慌て。今の体力ではお風呂は難しい  
んだけど、でも家に帰れるって思うだけで、何かを  
やりたいと思う元気が出てくるんだね。」

分かる！分かるわ。自分の居場所って本当に大事なものの。  
見慣れた景色、嗅ぎ慣れた匂い、触り慣れた感触。  
そこに居るだけで心から安心出来るもの。お腹を見せて  
爆睡してても平気なのよ。  
ヒモもペットも、介護って、周りのサポートがあっても家族  
は不安だし、ひとつの命を最期までお世話するって、大変  
よね。でも、このお父さんに、もし私みたいな尻尾があれば、  
今頃きっと、大好きなお家でちぎれんばかりに尻尾を  
ブンブン揺らしてるはずよ。

文責：はな 代筆：福本(飛)



## 桑名

## ちゃ〜り〜

もも桑名では、訪問の度にいろいろなペットに出会います。  
今回はかわいいハムスターのちゃ〜り〜をご紹介します。

チャーリーの紹介の前に、飼い主のSさんを紹介します。  
Sさんは40歳の女性で、ご主人と二人暮らしです。  
数年前に犬を飼いたかったそうですが、アパート暮らしだったため犬が飼えず、  
ペットショップでハムスターのチャーリーをみかけ、ご主人からの誕生日プレゼント  
として、家族の一員になりました。しかし、間もなくSさんは病気になり、長い入院生活を  
することになりました。入院中はご主人がチャーリーのお世話をしてくれていました。  
Sさんは、退院と同時に訪問看護を利用されることになり、私たちはチャーリーと出会  
いました。

出会った当時の0歳チャーリーはプクプクしたとっても活発な子でした。  
Sさんは、在宅療養をしながらも入院治療を繰り返していますが、チャーリーは  
Sさんの帰りをいつも待っているようで、顔を見ると元気にはしゃぎます。  
Sさんは現在、毎日高カロリーの点滴が必要です。腎臓に管を通して尿を排泄して  
います。便は人工肛門といって、お腹の壁に穴をあけ腸から排泄しています。  
病気を抱えながらも、Sさんはいつも明るく、チャーリーをお世話し、私たちを  
迎えてくれます。そうして、チャーリーも2歳が過ぎ、もうすぐ3歳です。  
ハムスターの寿命は2〜3年。チャーリーも年を重ねて、  
歩くのも大変なくらい痩せてきています。



1年後のチャーリー

Sさんは、衰弱していくチャーリーに餌をやわらかくして食べさせたり、水が飲みやすい  
ような容器に替えたりと、献身的にお世話をしています。Sさん曰く「老いていくチャーリー  
を家でお世話できるように、入院しないで頑張っている。」そうです。  
「布団におしっこしちゃうんだよね」と笑い、一緒にチャーリーと眠るSさんはとても素敵です。

文責：筒井



家族の一員となって  
間もなくのチャーリー



足の間で  
眠るチャーリー

## 人生はニャンと素晴らしい

## いなべ

こんにちは！ナーシングホームももいなべの訪問看護師の渡部です。  
私の家族の中には猫が3匹います。毎日どんなに疲れて帰っても、体を撫で、  
ご飯をあげて、水をあげて、吐いたら掃除・敷物の洗濯をして体も洗ってあげ  
て、猫にとって最適な環境を整えて……ん？これはもしかしたら私がお世  
話しているようで、実は小さいアゴで使われているのかも！？



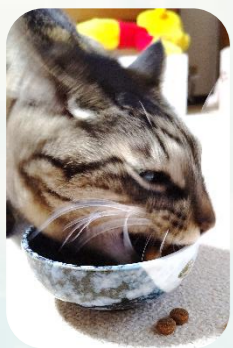
でも、疲れていて、何もできない状態でも、猫のお世話は出来るしまうのです。  
なぜなのでしょう？それは、ペットを飼うことで、居心地の良さ、触れ合い、笑いや運動などが  
生まれ、心を穏やかにする“オキシトシン”※という幸せホルモンが放出されるからのようです。  
オキシトシンが出ているからでしょうか、少々疲れていても毎日お世話ができています。  
動物を愛護して、きちんと世話をし、幸せホルモンが出て、生活に張りが出ています。

そうそう、訪問看護先で出会った方もそうでした。  
ご高齢の一人暮らしの方で、足の痛みで家の中のことは出来ないことが多  
くなり、一人での入浴も危険が伴い、あぶなっかしい状態でした。しかし、不思議  
なこと、飼っている老犬のエサは必ず準備してお世話もしていました。足が  
痛くても、しっかりしゃがんで、話しかけて、エサをあげていました。今思うと  
毎日のお世話の中で、幸せホルモンがたくさん出ていたのでしょうかね。

皆様も毎朝鳴いている雀の声、庭で遊ぶ小鳥、野良猫？など、  
毎日見かけていると何だか癒されませんか？  
幸せホルモンが出ているのでしょうか。  
皆様の周りにも小さい幸せありませんか。是非、探してみてください。

※オキシトシンは、男女ともに気持ちをリラックスさせたり、  
安心信頼といった感情をもたらす効果があります。別名：幸せホルモン

文責：渡部



## 四日市

## ペットは家族の一員

コロナ禍が長引く中、生活に癒しを求めてペットを飼う人が増えています。  
そうした需要が高まる一方、「思ったより大変」と、購入してすぐに動物愛護団体に保護を  
頼むケースも増加しているといえます。各団体は安易な購入で捨てられることを懸念し、  
「命を扱う責任を忘れないで」と訴えています。  
このような記事を見て、“ペットは家族の一員であり、大切に扱っていかねばならない”と  
再認識させられました。  
そこで今回はふたりの利用者さまのペットにまつわるお話を紹介したいと思います。

80代女性のAさんは夫と2人暮らし。オウムを我が子のように可愛がって  
育てていらっしゃいました。もも四日市のショートをご利用の際、「子供が  
授からなかったから、この子は我が子のように…」とよく話してくれました。  
その後、Aさんの入居が決まった時は、「この子のことが心配で安心して  
入居ができない」と仰っていました。なんとか預かり先が見つかり、  
安心されたようで、嬉しそうに話してくれました。

80代男性のBさんは、以前、犬を飼っていました。  
家族が買ってくれた犬の写真集をよく眺めており、写真を見ている時は、  
自然と笑顔がこぼれています。今はもう居ない飼い犬との思い出を、  
今も嬉しそうに話して下さいます。

おふたりのペットに対する思いを聞かせていただいて、ペットというのは単なる愛玩用の  
動物ではなく、安心・信頼といった感情を引き起こし、思いやりの心を育んでくれる、まさに  
『家族の一員』なのだと感じました。ひとつの命を、最期まで大切にしたいですね。

文責：小林

